令和５年度　　学校評価〔中間評価〕（関係者評価記入用紙）

寿都町立寿都小学校

点数：最高４点、最低１点、基準点2.5点

目標項目				アンケート項目	教職員		児童		保護者		自己評価	各項目に関わる状況・改善点など 学校から	学校関係者 自己評価の適切さ	学校関係者 改善策の適切さ	学校関係者評価委員から
重点目標について			1	子供が自分の目標に向かって挑戦する姿が見られた。	3.7		3.7		3.3		A				
確かな学力の育成	協働的な学びの充実・実践	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	2	課題解決の意欲を高めるために導入を工夫したり、単元計画を作成したりすることで、子供が見通しを持って主体的に学ぶ姿が見られた。	3.5	3.45	3.6	3.6	3.1	3	B	導入や単元計画の工夫を通して、子供たちが主体的に学ぶ姿を各学年で見ることができました。今後も、学びを生かせる場を設定したり、子ども達の「～～たい！」を大切にしながら、授業構築を進めていきます。			
			3	全体交流の進め方を工夫することで、子供が協働的に学ぶ姿が見られた。	3.4							全体交流の中で子ども達が学びを深められるように工夫をすることができました。今後も、「みんなだからこそできる学び」を深めていけるように、全体交流を工夫しながら、授業を進めていきます。			
	個別最適な学びの保障・充実	個別の教育的ニーズに対応する教育環境づくり	4	家庭学習への取組を工夫して行い、家庭での学習習慣が定着した。	3.3	3.4	3.4	3.4	3.1		B	家庭学習の掲示や、それぞれの学年での創意工夫を通して、学習習慣が少しずつ定着してきています。よりよい学習の紹介、ノートへのコメントなどを通して、子ども達の意欲が向上していると思います。今後も、子ども達の意欲高められるようにしながら、「やらされる学習」ではなく、「進んでやる学習」を目指して、継続した指導を続けていきます。			
			5	「がんばりタイム」や「朝学習」でICTや個別のプリントなどを活用するなど、子供が「個別最適な学び」を見つけ、学習する姿が見られた。	3.3				2.9		B	子供たちが自分に必要な学習を考え、それぞれで必要な学びをしていく力を伸ばしていくことができました。「言われたことをやる」のではなく、「自分で考えてやる」という子ども達の主体性を育てていく指導を全教員が意識しながら、教育活動を進めました。今後も、個別最適な学びを子供たちが考えながら進めていけるように、選択肢を増やすような言葉がけを意識した指導を進めていきます。			
			6	ICT機器の使用方法について研修を行うなどして、ICTを活用した教育活動の充実を図った。	3.6							教員間でICTについての情報を共有しながら、よりよいICTの活用について研修を進めることができました。今後も、教育DXに向けて、ICTを活用した学びの充実に努めていきます。			
		特別支援教育の充実	7	支援が必要とされる児童の実態について交流・検討し、支援体制を整備するなど、個別の支援の充実を図った。	3.5	3.5					A	支援が必要とされる児童に対して、パートナーティーチャーの学校訪問により指導助言や支援のアドバイスをいただき、今後の支援体制について校内支援委員会で協議しました。支援方法を校内に周知し、今後も、学校全体で個に合わせた支援ができるようにしていきます。			

豊かな心の育成	リアルな体験・人間関係づくりの充実	見えない学力の見える化 ・自分の考えを持つ ・自分を表現する ・人を大切にする ・チャレンジする	8	児童会での主体的な活動を通して、他者の視点に立って考え行動するなど、子供同士でお互いに認め合う人間関係づくりができた。	3.5	3.52	3.7	3.45		3.39	B	書記局の「スマイルパフェ」の活動における認め合う全校児童同士の活動や、委員長の事前打ち合わせ、活動の計画など児童が主体的に活動する姿が多く見られた。今後は、振り返りの見える化をより充実させること、誰でも委員会を進められるように進行の型を作り支援する。			
			9	子供が読書への意欲を高め、読書習慣が定着した。	2.8		3.1		2.9			朝読書や隙間時間に読書する様子が増えているが、図書コーナーの個人利用は少ない。特設コーナーをつくり、月ごとに児童の関心を高める内容に努める（〇〇先生のおすすめ本）。９月を目途に、本棚の入れ替えを行い、魅力的な図書コーナーづくりを心がける。			
			10	丁寧な教育相談や健康相談を行い、児童理解を深め、子供に寄り添うことで、子供が安心して学校生活を送る姿が見られた。	3.7							低学年でも、平常時に相談を目的として保健室に来室する様子が見受けられることから、健康相談の定期的な実施が児童の安心感に繋がっていると感じる。後期も同様に、担任との情報共有も大切にしながら丁寧に行っていく。			
			11	学級・学校行事等で、子供が主体的に活動できる場を設定し、達成感を味わわせることで、子供の自己肯定感が高まった。	3.9		3.2		3.3			運動会の係などで、自分たちが行うとよいことを考えながら活動している様子が見られました。 行事ごとの「目指す子ども像」や「ねらい」の中で、主体的な子供の姿を引き続き提示し、職員間で共通理解することにより、後期も子どもたちが活動しやすくしていきます。			
			12	地域のよさや文化を知ったり、キャリア教育へつながったりする体験学習を通して、子供の豊かな心が育った。	3.7		3.8		3.4			CSの協力を得ながら、様々な体験活動を行い、子供たちも楽しみにしている様子が見られました。今後は、「キャリア教育」との結びつきをさらに強めながら、体験活動を充実させていきます。			
健やかな体の育成	成長や学びを支える習慣づくり	目標や達成度の見える化	13	マラソンカードや縄跳びカードを工夫したり、目標や到達度の見える化を図ったりするなど、子供の体力向上が図られた。	3.4	3.45	3.5	3.35	3.4	3.1	B	それぞれのカードで目標を具体的に提示していることで、運動に取り組んでみようとしている姿が見られた。体力向上につながるよう、後期でも、活動を継続していきます。			
			14	食育や熱中症予防、健康相談等の取組を通して、子供が自ら健康に関心をち、生活習慣を改善しようとしていた。	3.6		3.2		3			給食指導や食育授業を行い、定期的に給食の様子を見ることで、食事のマナーやよくかんで食べることなど意識して食べる姿が見られました。また、運動会時期などに合わせて熱中症予防の指導を行うことで、児童同士で水分補給の声掛けをする様子もありました。今後も学級の実態や季節の変わり目に応じて、食育や保健指導を行っていきます。また、食事や健康に日ごろから関心を持てるよう、保健室の掲示や給食カレンダーを活用して、情報を発信していきます。			
			15	地域と連携した避難訓練や防犯教室、交通安全教室などを実施し、子供が自分事として捉える安全・防災教育に取り組んだ。	3.8				3			今後において、訓練や講演後の担任による事後指導を充実させるよう声掛けや事例を提案する。（実体験や現場での取り組みなど）防犯意識においては、防犯ブザーの装着意識が低いので、４月の総会や個人面談、学級懇談など保護者に直接呼びかける場を多くする。			
			16	子供のレジリエンス（失敗から立ち直る力、回復力）の向上が見られた。	3							児童のレジリエンスに対して具体的なイメージを持ちにくいという教員の声もあったため、今後は「事例募集ポスト」を作り、個人情報に留意しながら事例を集め、より実態にあった研修を目指していきたい。レジリエンスは個人差が大きく、その向上を一律に見取るのは困難であるが、「落ち込んでもスッと前向きに立ち直る姿」をイメージしながら、学校全体で好意に満ちた言葉掛けや環境づくりができるようにしていきたい。			

信頼される学校づくり	温かく活力ある組織づくりの実現	温かく活力ある組織づくり	17	教師力・授業力を高めるために、日常の授業実践に生かす研修の充実を図った。	3.7	3.6			3.5	3.5	A	研修の時間はもちろん、日常の職員室での会話・交流を通して、よりよい授業実践について教員間で深めていくことができました。ICTの活用など、最新の教育情報を注視しながら、日常の授業実践に向けた研修を行うことができました。今後も、子ども達の学力向上に向けて、教員間で様々な情報を共有しながら、研修を進めていきます。			
			18	各種通信やホームページ等により、情報を進んで発信し、保護者やCSときめ細やかに情報を共有することができた。	3.7				3.5						
			19	学校は、地域や学校運営協議会と連携・協働しながら学校を運営している。					3.5						
			20	「効率＋効果」的な業務改善を図り、組織的な働き方改革を促進した。	3.4										